

吉岡保貞君、田宮嘉右衛門君、中井勲作君、村上武次郎君、梅根常三郎君、久保田省三君、工藤治人君、黒田泰造君、栗本勇之助君、牧田環君、松田義一君、松本與三郎君、佐堂卓雄君、荒木宏君、足立泰雄君、寒川恒貞君、紀伊壽次君、平世將一君、斯波孝四郎君、尾藤加勢士君以上でございます(拍手)御當選の諸君は申す迄もありませんが、どうぞ御承諾を願ふことに致します。

**服部賞牌服部賞金、香村賞牌、俵賞金贈呈式**(前號及後記推薦理由書参照)

○會長(水谷叔彦) それでは是より服部、香村、俵賞の贈呈式に移ります、それに先ちまして一言私より御挨拶を申し上げたいと存じ

ます、此の服部賞、香村賞、俵賞を贈呈致します各位の御姓名及び其の理由は御手許に差上げてありますから改めて申し上げます、是等の各位が鐵鋼界の爲に御盡しになりました功績に付きましては本會の規定に則りまして慎重審議の上斯界に貢献されること著しいものと決定し茲に表彰を行ふ次第であります、本會は受賞者各位に對しまして深く慶祝の意を表するものであります。

[賞牌、賞金贈呈]

○會長(水谷叔彦) 是で贈呈式を終り、それと共に總會を是で閉じます。

午後零時5分散會

## 昭和12年度會務報告

### 1. 集會

通總會	理事會	評議會	編輯委員會	服部博士記念委員會	野田文庫委員會	大會	研究部會
1	11	1	12	1	3	2	1

### 2. 會員異動

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者	—	1(1口)	—	35	232	268
轉格者	—	—	1	—	77	78
退會者	—	—	—	15	37	52
死亡者	1	—	—	6	6	13
昭和13年2月末日現在	16	45(139口)	17	1,068	1,253	2,399
前年同期對増減	-1	+1	+1	+90	+112	+203

#### 備考

イ、維持會員新加入、大和製鋼株式會社……………1口

ロ、轉格會員

正會員より贊助會員に……………1

准會員より正會員に……………77

ハ、死亡者氏名

名譽會員 前會長 鹽田泰介君

正會員 服部傳三郎君 宮崎 正夫君 八木 宗一君

茂木 茂君 石田富次郎君 金子 增耀君

准會員 河村 信夫君 成瀬澄三郎君 村上 保尊君

小林 芳夫君 堀見 東一君 鈴木 和保君

以上13氏を喪ひたるは痛惜の至りなり、尙以上諸氏の訃に接しては直ちに弔詞を呈し哀悼の意を表せり。

### 3. 會誌發行及印刷物

イ、本會誌「鐵と鋼」自第23年第3號 至第24年第2號

ロ、商工省鑛山局編纂「製鐵業參考資料」

ハ、學振19小委 第2號鋼材鍛鍊作業の稱呼及び鍛造比表示方式

### 4. 處務事項

A. 第22回通常總會 昭和12年4月1日

イ、評議員半数改選

ロ、昭和11年度會務報告會計報告

ハ、昭和12年度收支豫算報告

ニ、服部賞牌並服部賞金贈呈式(表彰の項参照)

ホ、香村賞牌贈呈式 ( " )

ハ、俵賞金贈呈式

(表彰の項参照)

### B. 理事會

1) 入退會者審査

2) 毎月會務並會計事項審査

3) 故工學博士野田鶴雄君記念事業會より記念事業資金受領(鐵と鋼第23年第6號雜錄参照)(昭和12年4月9日)

4) 野田文庫委員次の通り委囑

委員長 水谷 叔彦

幹事 吉川 晴十 山縣 愷介 山田良之助 三島 徳七

委員 渡邊 三郎 松下 長久 俵 國一 池田 正二

石原 善雄 五百旗頭啓 田中 清治 長尾 武雄 鹽澤 正一

廣瀬 政次 足立 泰雄 澤村 宏 濱住松二郎 井上 克巳

長谷川熊彦 藤井 寛 金子 恭輔

5) 主事委囑

海軍少將 風間篤次郎……………(昭和12年5月5日)

6) 抄録員更改委囑(昭和12年5月31日現在會員名簿参照)

追加委囑 桶谷 繁雄

7) 故古市男爵記念事業會へ寄附金

### C. 評議員會

1) 任期滿了會長、理事、評議員推薦候補者選定

2) 監事選舉(第23回通常總會終了後就任)

當選者 西村小次郎(重) 濱田 彪(新)

3) 昭和12年度收支決算に關する件

4) 昭和13年收支豫算に關する件

5) 香村賞牌受領者選定

受領者 田所 芳秋君

6) 俵賞金受領者選定

受領者 (學術上優秀論文) 俵 信次君

" (技術上優秀論文) 久芳 道雄君

### D. 編輯委員會

1) 會誌每號掲載原稿審査選定

2) 會誌並其他刊行物の編輯

3) 講演大會研究部會等の開催準備並に實行

### E. 服部博士記念資金委員會 (昭和13年2月23日)

1) 第8回服部賞牌並服部賞金受領者詮衡決定

2) 昭和12年度服部博士記念資金收支決算報告

3) 昭和13年度服部博士記念資金收支豫算報告

### F. 野田文庫委員會

1) 故工學博士野田鶴雄君記念事業會より引繼ぎの書類及資金の處置に關する件

- 2) 野田文庫の設備の件  
書架は鋼鐵製とし佐倉鋼鐵工業株式會社へ注文し昭和 13 年 2 月末日竣成せり。

- 3) 購入圖書の選定の件 委員に於て目下選定中

**G. 鐵鋼要覽編纂** 目中進行中

**H. 官廳事項**

- 1) 本會事業報告を文部省へ届出 (昭和 12 年 4 月 6 日)
- 2) 本會資産變更登記 (昭和 12 年 4 月 7 日)
- 3) 商工省鑛山局編纂「製鐵業參考資料」私費印刷頒布申請 (昭和 12 年 7 月 14 日許可)
- 4) 商工省産業合理局工業品規格案に關する諮問回答
- 5) 文部省令昭和 11 年第 19 號第 6 條に依り本會昭和 12 年度收支豫算提出

**I. 事務員異動**

採用 編輯助手 (圖工) (補缺) 山下 義雄  
(昭和 12 年 4 月 19 日)

**J. 日本工學會其他**

- 1) 日本工學會メートル法専用實施促進調査委員本會より選出 2 名 (昭和 12 年 10 月)  
吉川 晴十 鹽澤 正一
- 2) 故男爵山内萬壽治記念事業會 表彰調査委員本會より選出 1 名 吉川 晴十
- 3) 日本動力協會參與員 水谷 叔彦
- 4) 日本工學會工業教育調査委員會本會代表委員俵 國一は同會解散に付自然解除

**5. 講演會**

第 17 回講演大會, 昭和 12 年 4 月, 東京市に於て出席者約 600  
講演數.....38

第 18 回講演大會, 昭和 12 年 10 月, 札幌市に於て出席者: 130  
講演數.....32

**6. 調査事項**

第 15 回研究部會 昭和 12 年 4 月 4 日 東京市に於て  
議題 平爐の熱勘定に於て (鐵と鋼第 24 年第 2 號參照)

**7. 表彰** (昭和 12 年 4 月 1 日第 22 回通常總會に於て表彰)

**A. 服部賞牌並服部賞金贈呈(第 7 回)**

賞牌受領者

株式會社昭和製鋼所常務取締役 工學士 久保田省三君

賞金受領者

吳海軍工廠製鋼部工手 池内惣五郎君

大阪帝國大學工學部助教授 工學博士 上田 太郎君

株式會社日本製鋼所室蘭工場 大谷悦太郎君

日本製鐵株式會社八幡製鐵所鑛滓課長

工學士 香春三樹次君

日本鋼管株式會社 熊地 直政君

株式會社神戸製鋼所製鋼部次長 三橋 録三君

日本特殊鋼合資會社技師 工學士 矢島 忠和君

(以上 8 名)

**B. 香村賞牌贈呈(第 5 回)**

受領者

日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師 工學博士 谷口光平君

**C. 俵賞金贈呈(第 3 回)**

受領者 (學術上優秀論文)

熊本高等工業學校教授 工學博士 本多 顯曜君

(技術上優秀論文)

株式會社昭和製鋼所技師 工學士 淺輪 三郎君

8. 圖書寄贈受付.....230 部

## 昭和12年度會計報告

自昭和12年3月1日 至昭和13年2月29日

## 貸借對照表

第(1)號

(昭和13年2月末日)

勘定科目 (資産)	内譯	合計	勘定科目 (負債)	内譯	合計
(什器)		2,172.78	(未收會費見返)		803.40
(電話)		800.00			
(圖書)		885.41			
(敷金)		750.00	小計		803.40
(保證金代用有價證券)		1,044.84	(資金)		276,288.74
會誌發行保證金	907.00		前年度繰越高	146,808.35	
約束郵便保證金	137.84		本期增加額	129,480.39	
(分讓印刷物)		250.00	別口資金 ¥125,089.38		
以上六口固定資産			事業資金 ¥ 4,391.01		
計 ¥ 5,903.03					
(有價證券)		14,819.50	昭和十三年度二月末資金		
(信託預金)		49,373.62	内譯		
(銀行預金)		7,096.56	服部博士記念資金	21,116.86	
定期預金	2,393.85		香村博士寄贈資金	24,155.01	
特別當座預金	4,702.71		俵博士記念資金	5,167.45	
(振替貯金(口座基金ヲ含ム))		11,500.69	河村博士寄贈資金	5,541.55	
(現金)		233.47	鐵鋼資料編纂資金	11,100.32	
以上五口流動資産			野田文庫資金	120,280.68	
計 ¥ 83,023.84			(別口資金)計	187,361.87	
(別口野田文庫資産什器)		536.00	事業資金	88,926.87	
(別口資金見返有價證券)		45,000.00		276,288.74	
服部博士記念資金	20,000.00				
香村博士寄贈資金	20,000.00				
俵博士記念資金	5,000.00				
(別口資金見返信託預金)		105,541.55			
河村博士寄贈資金	5,541.55				
野田文庫資金	100,000.00				
(別口資金見返銀行預金)		34,732.40			
服部博士記念資金	1,116.86				
香村博士寄贈資金	4,155.01				
俵博士記念資金	165.50				
鐵鋼資料編纂資金	11,084.10				
野田文庫資金	18,210.93				
(別口野田文庫見返振替貯金(口座基金ヲ含ム))		1,495.62			
(別口資金見返現金)		56.30			
俵博士記念資金	1.95				
鐵鋼資料編纂資金	16.22				
野田文庫資金	38.13				
以上六口別口資金見返資産					
計 ¥ 187,361.87					
(未收會費)		803.40			
		277,092.14			277,092.14

## 昭和 12 年度 收支決算

第(2)號

自 昭和 12 年 3 月 1 日 至 昭和 13 年 2 月末日

支 出	内 譯	合 計	收 入	内 譯	合 計
(會 誌 印 刷 費)		16,631.23	(維 持 會 員 會 費)		13,900.00
(版 類 製 作 費)		1,141.91	(贊 助 會 員 會 費)		300.00
(別 刷 印 刷 費)		1,138.09	(正 會 員 會 費)		9,778.10
(製 鐵 參 考 資 料 印 刷 費)		1,574.30	(准 會 員 會 費)		9,800.10
(原 稿 料)		2,029.07	(入 會 金)		309.00
(約 束 郵 便 料)		945.57	(印 刷 物 分 讓 料)		2,868.23
(俸 給 及 手 當)		8,455.90	(廣 告 料)		9,516.30
(借 室 料)		2,750.00	(公 社 債 利 子)		735.48
(會 合 費)		373.15	(振 替 貯 金 利 子)		220.29
(日 本 工 學 會 費)		200.00	(銀 行 預 金 利 子)		163.03
(事 務 費)		3,779.94	(信 託 預 金 收 益)		1,782.42
(圖 書 費)		201.86	(鐵 鋼 試 料 分 讓 料)		5,236.94
(器 器 )		92.90	(雜 收 入)		42.52
(大 會 費)		4,435.64	(大 會 收 入)		1,651.00
(鐵 鋼 試 料 買 入 代 金)		4,133.60	小 計		56,303.41
(鐵 鋼 資 料 編 纂 費)		4,000.00			
(豫 備 費)		324.00			
小		52,207.16			
差引本年度收入超過金		4,096.25			
		56,303.41			56,303.41
			本年度資金増加額照合表		
			收入増加額		4,096.25
			上記ノ通り		
			(追加)支出中財産=還元額		294.76
			圖 書 費	201.86	
			什 器 費	92.90	
			合計本年度資金増額		4,391.01

## 昭和12年度別口資金收支決算表

第(3)號

(自昭和12年3月1日至昭和13年2月末日)

別口	支出	金額	收入	金額	
(1) 鐵鋼資料編纂資金	(通信費)	400	(經常費ヨリ受入高)	4,000'00	
	(交通費)	3'30	(利子收入)	158'17	
	(印刷費)	90'95	小計	4,158'17	
	(雜費)	53			
	小計	98'78			
	差引次年度へ繰越高	11,100'32	前年度ヨリ繰越高金	7,040'93	
		11,199'10		11,199'10	
(2) 服部博士記念資金	(賞金)	700'00	(公債利子)	1,000'00	
	(賞牌製作費)	350'11	(銀行預金利子)	14'73	
	(受賞者招待費)	21'00	小計	1,014'73	
	(筆耕料)	14'40			
	(通信費)	7'12	前年度ヨリ繰越高金	1,244'16	
	(印刷費)	35'10			
	(信託手數料)	10'00			
	(雜費)	4'30			
小計	1,142'03				
	差引次年度へ繰越高	1,116'86			
		2,258'89		2,258'89	
(3) 香村博士寄贈資金	(賞牌製作費)	380'69	(公債利子)	1,000'00	
	(通信費)	4'20	(銀行預金利子)	64'40	
	(受賞者招待費)	3'00	小計	1,064'40	
	(印刷費)	3'40			
	(雜費)	3'60	前年度ヨリ繰越高金	3,485'50	
	小計	394'89			
	次年度繰越高金	4,155'01			
		4,546'90		4,549'90	
(4) 俵博士記念資金	(賞金)	200'00	(債券利子)	215'00	
	(通信費)	63	(銀行預金利子)	1'44	
	(印刷費)	7'90	小計	216'44	
	(受賞者招待費)	3'00			
	(雜費)	2'52	前年度ヨリ繰越高金	165'06	
	小計	214'05			
	差引次年度へ繰越高	167'45			
		381'50		381'50	
(5) 河博寄資 村士贈金	次年度へ繰越高	541'55	(信託預金收益)	204'71	
		541'55	前年度ヨリ繰越高金	336'84	
				541'55	
(6) 野田 文庫 資金	(通信費)	14'30	(故野田博士記念事業會ヨリ引繼受ケタル基金外資金)	17,999'91	
	(會合費)	11'45	(信託收益)	2,170'93	
	(什器費)	536'00	(定期預金利子)	200'16	
	(報酬手當)	30'00	(特別當座預金利子)	39'84	
	(交通運搬費)	8'50			
	(筆耕料)	18'24			
	(印刷費)	2'40			
	(振替口座基金)	10'00			
	(振替手數料)	1'05			
	(雜費)	44'22			
	小計	676'16			
		次年度へ繰越高	19,734'68		
			20,410'84		20,410'84

備考 野田文庫資金 支出中資産還元額(什器) ¥ 536'00 (振替口座基金) ¥ 10'00

## 財 産 目 録

第(4)號

(昭和13年2月末日現在)

摘 要	昭和12年 2月末日現在	昭和13年 2月末日現在	差 引 増(+)-減(-)	備 考
資 産 ノ 部				
(什 器)	2,079.88	2,172.78	(+) 92.90	
(電 話)	800.00	800.00		
(圖 書)	683.55	885.41	(+) 201.86	
(敷 金)	750.00	750.00		
(保證金代用有價證券)	1,044.84	1,044.84		
甲號五分利公債額面 ¥1,000.00 會誌發行保證金	907.00	907.00		
み號 " ¥150.00 約束郵便 "	137.84	137.84		
(分 讓 印 刷 物)	250.00	250.00		
(有 價 證 券)	14,819.50	14,819.50		
東京電燈社債額面 ¥1,000.00	1,000.00	1,000.00		
東洋拓殖債券 " ¥13,000.00	12,870.00	12,870.00		
帝國五分利公債 " ¥1,000.00	949.50	949.50		
(信 託 預 金)	47,591.20	49,373.62	(+) 1,782.42	
三菱信託株式會社	26,415.63	27,428.92	(+) 1,013.29	
三井信託株式會社	21,175.57	21,944.70	(+) 769.13	
(銀 行 預 金)	5,734.58	7,096.56	(+) 1,361.98	
住友銀行東京支店定期預金	2,316.79	2,393.85	(+) 77.06	
三菱銀行 特別當座預金	3,417.79	4,702.71	(+) 1,284.92	
(振替貯金口座基金ヲ含ム)	10,804.24	11,500.69	(+) 696.45	
(現 金)	40.72	233.47	(+) 192.75	
(未 收 會 費)	887.25	803.40	(-) 83.85	
小 計	85,485.76	83,730.27	(+) 4,244.51	
(別口資金見返資産) (別口財産目録通り)	62,272.49	187,361.87	(+)125,089.38	
合 計	147,758.25	277,092.14	(+)129,333.89	
負 債 ノ 部				
(假受金)前 受 會 費	62.65	803.40	(-) 62.65	
(未 收 會 費)	887.25	803.40	(-) 83.85	
合 計	949.90	803.40	(-) 146.50	
差 引 資 金 現 在 高	146,808.35	276,288.74	(+)129,480.39	

別 口 財 產 目 錄

第(5)號

(昭和13年2月末日現在)

摘 要	昭和12年 2月末日現在	昭和13年 2月末日現在	差 引 增(+)-減(-)	備 考
1. 鐵鋼資料編纂資金	7,040'93	11,100'32	(+) 4,059'39	
三菱銀行特別當座預金	7,040'93	11,084'10	(+) 4,034'17	
現 金		16'22	(+) 16'22	
2. 服部博士記念資金	21,244'16	21,116'86	(-) 127'30	
帝國五分利公債額面	¥ 20,000'00	20,000'00		
三菱銀行特別當座預金	893'02	1,116'86	(+) 223'84	
現 金	351'14		(-) 351'14	
3. 香村博士寄贈資金	23,485'50	24,155'01	(+) 669'51	
帝國五分利公債額面	¥ 20,000'00	20,000'00	(+)	
三菱銀行特別當座預金	3,131'30	4,155'01	(+) 1,023'71	
現 金	354'20		(-) 354'20	
4. 依博士記念資金	5,165'06	5,167'45	(+) 2'39	
東洋拓殖債券額面	¥ 5,000'00	5,000'00		
三菱銀行特別當座預金	165'06	165'50	(+) 0'44	
現 金		1'95	(+) 1'95	
5. 河村博士寄贈資金	5,336'84	5,541'55	(+) 204'71	
三菱信託株式會社信託金	5,336'84	5,541'55	(+) 204'71	
6. 野田文庫資金		120,280'68	(+)120,280'68	
三菱信託株式會社信託金		35,000'00	(+) 35,000'00	
三井		35,000'00	(+) 35,000'00	
住友		30,000'00	(+) 30,000'00	
三菱銀行定期預金		4,066'72	(+) 4,066'72	
三井銀行丸ノ内第二支店		4,066'72	(+) 4,066'72	
住友銀行東京支店		4,066'72	(+) 4,066'72	
三菱銀行特別當座預金		1,972'31	(+) 1,972'31	
三井銀行丸ノ内第二支店		2,174'63	(+) 2,174'63	
住友銀行東京支店		1,863'83	(+) 1,863'83	
現 金		38'13	(+) 38'13	
振替貯蓄		1,485'62	(+) 1,485'62	
什 口 座 基 金 器		10'00	(+) 10'00	
什		536'00	(+) 536'00	
合 計	62,272'49	187,361'87	(+)125,089'38	

昭和13年度經常收支豫算

收 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
雜正准入印廣公振銀信鐵雜	13,900'00	會 費	18,000'00
持 會 員 會 費	10,500'00	誌 類 刷	1,500'00
會 員 會 費	10,000'00	刷 作 刷	1,300'00
會 員 會 費	300'00	印 製 印 稿 郵 及 室 合	2,000'00
分 讓 利 利 讓	2,900'00	東 級	1,000'00
分 讓 利 利 讓	8,500'00	學 會	9,000'00
分 讓 利 利 讓	730'00	務 書 器 會	3,420'00
分 讓 利 利 讓	230'00	會 費 費 料 料 當 料 費 費 費 費 費 費 費 費	550'00
分 讓 利 利 讓	170'00	會 費 費 料 料 當 料 費 費 費 費 費 費 費 費	200'00
分 讓 利 利 讓	1,900'00	會 費 費 料 料 當 料 費 費 費 費 費 費 費 費	4,000'00
分 讓 利 利 讓	5,400'00	會 費 費 料 料 當 料 費 費 費 費 費 費 費 費	400'00
分 讓 利 利 讓	50'00	會 費 費 料 料 當 料 費 費 費 費 費 費 費 費	250'00
		會 費 費 料 料 當 料 費 費 費 費 費 費 費 費	3,000'00
		會 費 費 料 料 當 料 費 費 費 費 費 費 費 費	4,500'00
		會 費 費 料 料 當 料 費 費 費 費 費 費 費 費	4,000'00
		會 費 費 料 料 當 料 費 費 費 費 費 費 費 費	1,460'00
合 計	54,580'00	合 計	54,580'00

## 昭和13年度別口資金收支豫算

口 別	收 入		支 出	
	項 目	金 額	項 目	金 額
(1) (鐵鋼資料編纂資金)	前年度ヨリ繰越高子 本年度經常費ヨリ受入高子 鐵鋼要覽賣却收入	11,100.32 4,000.00 200.00 8,000.00	鐵鋼要覽原稿料費 印刷製本費 給(筆耕, 圖工)費 雜次年度繰越	6,250.00 8,615.10 1,728.00 2,707.22 4,000.00
	計	23,300.32	計	23,300.32
(2) (服部博士記念資金)	前年度ヨリ繰越高子 本行公債金利	1,116.86 1,000.00 18.00	賞牌製作贈呈費 受賞者招待費 印信雜次年度繰越	320.00 900.00 30.00 25.00 40.00 10.00 5.00 804.86
	計	2,134.86	計	2,134.86
(3) (香村博士寄贈資金)	前年度ヨリ繰越高子 本行公債金利	4,155.01 1,000.00 70.00	香村賞牌製作贈呈費 狀用紙並揮毫費 賞受雜次年度繰越	320.00 3.00 3.00 5.00 4,894.01
	計	5,225.01	計	5,225.01
(4) (俵博士記念資金)	前年度ヨリ繰越高子 本行公債券金利	167.45 215.00 1.60	賞金贈呈費 狀用紙並招待費 賞受雜次年度繰越	200.00 3.00 6.00 7.00 167.45
	計	384.05	計	384.05
(5) (河村博士寄贈資金)	前年度ヨリ繰越高子 信託預金金利	541.55 210.00	次年度繰越	751.55
	計	751.55	計	751.55
(6) (野田文庫資金)	前年度ヨリ繰越高子 本行信託金收 振替貯金金利	19,734.68 3,800.00 148.26 32.67	書架購置費 圖書室購入費 圖書購置費 雜次年度繰越	2,500.00 1,323.00 5,000.00 892.61 1,000.00 13,000.00
	計	23,715.61	計	23,715.61

## 第八回服部賞牌並賞金受領者推薦理由書

## 服部賞牌受領者

日本製鐵株式會社八幡製鐵所

技師松原武三郎君

君は大正六年京都帝國大學工科學部鐵冶金科を卒業して製鐵所に奉職せられ専ら製鋼作業に従事し昭和九年日本製鐵株式會社の設立するに及びて同社に採用せられ今日に至り、君は製鐵所に入職するや直に第二製鋼工場勤務となり當時最も困難とせられたる固定式平爐に依る銑鐵鑛石法の研究に關與し其の基礎を確立し、次て大正十四年より豫備精鍊爐を用ひて合併製鋼法の研究をなし、幾多の困難を克服して遂に之に成功し本邦に於ける銑鐵鑛石法に新生面を劃すに至りたり、更に昭和三年に至り第三製鋼工場に轉ずるやタルボット製鋼法の改善に努力し、幾多の苦心を嘗めたるも排滓設備を改造し噴出口の冷却装置を施す等種々工夫を重ねて爐の持續を計り

初期に於て爐の持續回数僅に百回に過ぎざりしが能く三百回以上繼續することを得るに至らしめ他方混銑爐の建設、熔銑の成分の改良と相俟て遂に本邦最初のタルボット製鋼法に成功したるは其の功績顯著なりと言ふべし、尙當時需要激増せる低炭素シートバー類の製造を研究し遂に優良品の多量生産に成功するに至りたるは氏の功績に負ふ所大なり。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第七條に依り服部賞牌を受くる資格あるものと認む。

## 服部賞金受領者

日本製鐵株式會社兼二浦製鐵所

技師田畑農夫君

君は大正三年秋田鑛山専門學校卒業後直に當時の三菱合資會社鐵山部に入職せられ熔鑛爐作業實地研究の爲め製鐵所に派遣せられ兼



二浦製鐵所の建設工事起るや同六年四月兼二浦に赴任し熔鑪建設に參與し之が完成後は専ら製銑作業に従事して昭和九年日本製鐵株式會社の設立と共に同社に採用せられ卒業以來二十一年間専ら製銑作業に従事し今日に及べり。此の間兼二浦に於て褐鐵鑪を主原料とする熔鑪の操業法に就き一意研究をなし今日の成績を見るに至りたる功績尠からず就中大正十一年低磷精製爐の發明に關與し低磷銑の製造開始せらるゝや銳意品質の向上、生産費の低減を計る爲め幾多の困難を排して設備の改良と操業法の研究に盡瘁し遂に操業温度及び鑪滓の性能と除磷脱硫との關係を明にせるは日本鐵鋼協會第十六回講演大會に於て發表せる所にして同作業所の今日に於る低磷銑製造を完成し本邦の製銑作業に貢獻せし所甚大なり。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第八條に依り服部賞金を受ける資格あるものと認む

#### 日本製鋼所 技師 小林 佐三 郎君

君は昭和二年三月濱松高等工業學校應用化學科を卒業後、直に日本製鋼所に入社せられ爾來十餘年餘に亘り同社室蘭製作所改良部に於て専ら化學的研究に従事したり。其の間の業績の主なるものを上げれば次の如し。

鋼材中のサンド分析、及びスラッグ分析等を爲して之を實作業に應用普及せしむることを圖り、又鋼材並に鋼浴中の酸素及び水素分析法に關しては之を實用し得べき簡易なる装置と方法とを案出せり其他各種脱酸劑の研究を遂ぐる等、特殊鋼製造に關する重要な基礎的研究方法を整備完成したり。而して此等貴重なる研究の主なるものは之を整理して多くは「鐵と鋼」誌上に發表して弘く世を裨益する所ありたり。

以上は實作業に直接關聯せる至難なる諸問題を取扱ひ能く之等を消化したるのみならず、從來困難とせられたる現場作業と實驗研究との聯鎖を最も有効に活用せしめ現に鋼材の缺點たるサンド及び白點を防止する爲め多大なる効果を上げ得たるものにして、學術上及び技術上の進歩發達に貢獻せる所尠なからず。仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第八條に依り服部賞金を受ける資格ある者と認む

#### 日本製鐵株式會社 輪西製鐵所長 横田 文吉 氏 作業部長 川口 正名 氏

兩君は日鐵輪西製鐵所に勤務せられ特に低温乾燥設備に就て功績あり、同製鐵所にありては其熔鑪用コークスは高揮發性炭なる北海道道内炭を主原料とし之に約三分の一の開平、土威の如き低揮發性輸入炭を配合して堅硬なるコークスを製造しありしが、由來短距離にて割安なる道内炭のみを以て製し得れば經濟上並びに有事の際甚好都合なるを以て下村孝太郎博士考案に係る半該炭を製して外來炭に代るべき研究を早くより行ひ來りしなり、而して斯るコークスの相當量を製し月餘に亘り熔鑪に使用し大體良好なる結果を得たりしと雖も、折柄不況打續き工業的設備は中止されありしも日本製鐵となりし後、液體燃料として低温タールを得らるゝ關係上、海軍並に商工省の勧めに依り海軍及燃料研究所の助力の下に獨特の内熱及外熱の装置を考案し數多の困難を経て屢々設備を改良し一方其成分を種々調査してコークスに適せるものを探求しコークス主原料に對し配合炭約三分の一なりしものを二割五分以下に低下せしめ内約一割五分は輸入炭より割安にして道内炭を原料とせる半該炭と輸入炭一割以下の兩者を混ざる事に依りて良好なる結果を収め得たり、斯くて平時は經濟的に効果を擧ぐると同時に日支事變中輸入炭困難なるに際しては重ねて多大の便益を擧ぐる事を得たり、而して副産品は高温乾燥に比して量多くして是又軍事上並に化學工業上或は燃料

として現在は勿論將來に於て大なる希望を有し得らるゝは云ふまでもなく且つ此種設備として經濟的に成功せるものは幾多の考案並に實施せるものありと雖も世界的に誇りうるものと信ずるものなり。

如斯は深き學力並に幾多の實地經驗を有する兩氏が機械的並に化學的考慮を拂ひつゝ永年協力一致努力研究されし結果にして低揮發性炭に乏しき本邦製鐵事業に對し貢獻する所誠に大なりと云ふを得べし。

依て兩君は服部博士記念資金取扱規則第八條に依り服部賞金を受ける資格あるものと認む。

#### 陸軍造兵廠大阪工廠 陸軍技師 藪内 周三 郎君

本邦に於ては從來酸性電氣爐により製鋼作業を行ふ類例少く殊に大型の特種鋼塊の鑄造については全く其例を見ざるどころなりしが陸軍造兵廠大阪工廠に於ては去る昭和十年十一月以來技師藪内周三郎氏を主任としエルー式 10t 電氣爐を酸性裏附して炭素鋼及特殊鋼塊の熔製を試み爾來毎日一回或は晝夜連續の作業を行ひ今日に至るまで約 680 回の操業をなし内特殊鋼塊を造ること約其半數なり其間爐床の狀況に何等異状なく操業又順當にして成品の成績も至て良好なり。

抑々酸性電氣爐法の成否如何は裏附材料及床附法の可否に依るところ多きを以て藪内氏は種々豫備的研究を行ひたる後結局銀砂に珪石小粉 30%、鋼滓粉 10% を混し之に適當の粘結劑を加へ水を以て捏混したる後之を 10mm 位つゝの厚さに撞固したるものが最も此目的に適することを見出し先づ之を 100t 容量の小電氣爐に應用して好成绩を擧げたるを以て遂に此種の材料及裏附法を採用するに決せり。

次に裏附の乾燥及焼付は至大の注意を要するものにして藪内氏は仔細に工廠の用ふる銀砂及珪石の熱的性質を検討したる後結局 200°C 附近に於ける水分揮散の際を徐々に加熱し亞いて 575°C 附近に於ける α 珪石 → β 珪石の變化に基き異常なる膨脹時を緩除に加熱すれば其後の焼付は急速に之を行ふも何等憂ふべき結果を齎さざることを確認たり。

又其精鍊法は酸性平爐に於けると略同一の原則の下に操業するも酸性電氣爐に於ては平爐に比し温度の上昇容易且迅速なること熔滓の除去更新容易且安全なること、爐内氣圈の調整容易なること等の特性を利用して原料の配合及裝入、熔解及脱滓、合金劑の添加並に止電鎮靜等の作業を適當に研究鹽梅して熔解時間、電力消費量、爐の命數及成品の諸性質に於ても優良なる成績を擧ぐることを得たり。

次に成品の成績に就て一言せんに元來鹽基性電氣爐鋼の物理的性質（抗張力、撓り、伸等）は酸性平爐鋼に優ると考へらるゝが酸性電氣爐鋼の夫は略鹽基性電氣爐鋼に等しく酸性平爐鋼に優る、又近來特殊鋼鍛造品中に屢々發生する白點の主原因は其内に存在する水素にありと認めらるゝに至りたるが鹽基性電氣爐に於ては多量に用ひらるゝ燒石灰（水を含む）中の水分、又平爐に於てはガス燃焼物中にある水分より水素を吸収するの恐れあるも酸性電氣爐に於ては燒石灰を用ふること稀に又爐内の氣圈も水分を含むこと少きを以て水素を吸収するの機會甚だ少きは自明の理なり、故に大阪工廠に於ては特殊鋼熔製に専ら此爐を用ふるに至て以來白點に苦しめらるること極めて稀なり。

以上述べ來りたるが如く酸性電氣爐の裏附材料及其床附法並に其製鋼作業等に關し内外に其範例を求むること甚難きの時に當り何等の故障なく速に能く之を大成したるは全く藪内氏の用意周到なる研究と優秀なる技術とに基くものと云はざる可からず、依て同君は服

部博士記念資金取扱規則第八條に依り服部賞金を受くる資格あるものと認む。

陸軍造兵廠大阪工廠鐵材製造所

雇員 西村 彌三郎君

同君は昭和三十三年一月大阪砲兵工廠製鋼場に入職し爾來三十八年餘終始一貫製鋼作業に従事し、大正四年四月職長に進み昭和九年二月職員待遇を受け同十年十二月満期退職に際し引續き職員として作業に従事し又昭和十二年二月陸軍技手に任ぜられ現在に及ぶ、其性質溫和にして實に圓滿なる人格を有し部下より慈父の如く敬慕せらる、且技術方面に於ては不斷の研究と熱心なる努力とに依り屢々有益なる考案をなし授賞せられたること多し、又其業績は平爐製鋼ルツボ製鋼、電氣爐製鋼等の何れにも精通し本邦に於ける製鋼作業の濫觴期より今日に至るまで四十年一日の如く之が改善進歩を謀り陸軍所要主要鋼材の製造を擔任して能く優秀なる鋼材の製造に全力を注ぎたり。

惟ふに製鋼作業の進歩發達は學理の應用と深き經驗とに待つべきもの多し、而して氏の如きは陸軍製鋼技術の生学引として其一生を製鋼作業に捧げたるものと云ふべく其本邦製鋼界に致したる貢献は蓋し著大なりと云ふべし依て君は服部博士記念資金取扱規則第八條に依り服部賞金を受くる資格あるものと認む。

滿鐵臨時製鐵試驗工場施設事務所

所長 日下 和治君

君は大正十年旅順工科學堂探礦冶金學科卒業後滿鐵に入社し冶金に関する研究に従ひ昭和七年以降海綿鐵研究に専心し卓上小實驗中規模工場實驗を經過し更に撫順市、滿鐵臨時製鐵試驗工場建設事務に従事し現に建設事務所長の地位にあり。

同君は夙に滿洲に於ける高級鐵及び鋼の製鍊並に製品の加工、材質等に着眼し研究問題を提案し歴代研究所長並に直屬課長の指揮の下に熱心に努力し來れり、研究には人工酸化鐵及び優良天然鐵礦の品質研究に出發し製鍊方法としては過去に於て行はれし多數の類似方法の特長を研究し更に獨特の考案を加へ回轉圓筒型爐ガス還元法とし温度及びガスの種別、補助還元剤、電氣加熱、液體燃料加熱、微粉炭燃料加熱、還元鐵の酸化防止、硫黃の製品侵入防止等の詳細に互る廣汎多方面の問題を長さ3mの鐵管により作れる傾斜回轉爐により卓上實驗を繰返し、99.9%以上の低温度還元鐵の製鍊に成功し更に之を壓搾して團塊となし高周波電氣爐により熔解して純鐵塊となせり。製品純鐵の用途についてはヘエガネス海綿鐵を用ゆる世界各地の實例に鑑み高級鐵及び鋼の製鍊に入り特に各種熔接棒及工具鋼は著しきものなり沙河工鐵道工場と連絡し其材質の向上に努めたる結果豫想し能はざりし優良性を發揮するに至れり、次で10萬圓の研究費を受け冶金工場を建設し長さ8m内徑300mm及600mmの二基電氣加熱式及び重油加熱式回轉爐を中心とする融元熔解並に鐵の加工一切設備を完成し、昭和十一年末より之を運轉し半工業的研究により多數の新事實を發見し經濟的豫想を立て工業化の確信を得るに至れり。此内容の詳細は度々上司に報告し其鞭達を受けたり昭和十二年七月滿鐵重役會議に於て更に工業的規模に依り最後の試験を行ふ事に決定せり現在は前掲試驗工場に50m回轉爐を中心とせる一切必要設備の建設中に於て既に大部分を完成するに至れり滿鐵としては時勢に鑑み撫順炭礦の實力を注ぎ昭和製鋼所の援助により迅速試験を進めつゝあり。

本法は昭和十二年三月佛國特許を受けたるも日本特許は出願中に屬し未だ許可に至らざる爲公開及發表を避け來れるものなり。昭和

11年10月其一部を東京に於て發表し又陸海軍専門家は屢々本法を調査されたり。特許及試験の内容方針確立せるが故に滿鐵社内の許可を受け昭和十三年々頭以降逐次論文發表をなすことゝなれり。

本法の特長は鐵鐵の適性、粒形、還元温度、還元剤、脱硫及び脱磷、等を主として更に熔解加工等にあり。

以上列記せるが如き日下君の努力並に其業績は他の模範となし得るものにして服部博士記念資金取扱規則第八條に依り服部賞金を受くる資格あるものと認む。

日本鋼管株式會社 笹部 誠君  
菊地 浩介君

笹部君は大正十四年三月東京帝國大學冶金科卒業後日本鋼管株式會社電氣製鐵所に入社せられ爾來電氣爐による特殊鋼の製鍊に多年の經驗を有す。

菊地君は昭和四年三月東京帝國大學冶金科卒業後同社に入社せられ素材及製品の金屬的研究に専念し常に社内に於ける其方面の指導的立場に努めつゝあり。

同社は昭和八年夏大管工場を新設しビルガー壓延機の使用を始めたるが其ロールは外國製品に依存して作業を繼續するの止むを得ざるを遺憾として之が國産品に依る方針を計畫し國內2,3の工場に其製造方を依存したるが其製品は殆ど使用に耐えざる状態なりき、此時に當り上記兩君はビルガーロールの品質改良、製造の實現並に熱處理等の全般に互り研究に盡瘁したる結果遂に總ての點に於て外國品に劣らざる優良品を製造するに至りたり。

而して始業以來使用し得たる外國製品のロールは品質區々なる爲め繼目無大口徑管製造作業の成績は餘り良好ならず猶多大の障害を免れざる實狀にありたり、然るに兩君の研究により製造したるロールの出現により始めてビルガー壓延機の作業々績に劃期的に好成绩を齎し従て能率向上を來したり即外國製品に依る實績は内徑1mm當53~140tの壓延t數なりしが此自社製ロールに依る時は175~250tに及ぶ優秀なる成績を示し且作業上には些の困難をも生ぜず容易に連續し得るに至りロールの品質不良による不安を一掃し得たるは偉大なる功績と云ひ得べし。

依て兩君は服部博士記念資金取扱規則第八條に依り服部賞金を受くる資格あるものと認む。

香村賞牌受領者

日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師

理學博士 田所 芳秋君

君は大正五年東北帝國大學理科物理科を卒業後直に當時官營の製鐵所に入り研究課(現研究所の前身)に勤務し引續き今日に至るものにて製鐵作業に重要な關係を有する耐火物の研究に従事せられこの間に於ける研究報告は約115項の多きに達し廣く所外に發表せられしもの10餘項に及ぶ、就中主なる研究としては熱不良導體温度測定装置の完成(大正十年製鐵所研究報告第一卷其他)を始め高温度に於ける耐火物の熱的諸性質の研究(大正十一年製、研第二號其他)特に本邦製鐵業用各種耐火煉瓦に関する研究合計約30項は多年連續研究の所産にして一般に發表せられたるものもまた尠からずこれに依り我國製鐵業に實際使用せる各種耐火煉瓦の性質を刺すところなく周知せしめ斯界技術者に具體的指針を與へたるものなり而して同君の潑刺として息むところなき研究は更に最近に至り鋼のガス通氣性より見たる青熱脆性の本性研究(鐵と鋼)の如き鋼に関する新方面の研究にまで及びたり、同君は嚮に學士院賞を授與せらるゝの榮譽をになひ同君の學界並に工業界に貢獻するところ寔に大なるものあるは今更言を俟たず。

仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則により香村賞牌受賞者たるの資格充分なりと認む。

#### 第四回俵賞金受領者

本會俵博士資金取扱規則に依り鐵と鋼第二十二年自第一號至第十二號中學術上並に技術上有益なる論文著者詮衡委員會を開き慎重審議の上次記二氏を選定し評議員會の決議を経て茲に俵賞金贈呈式を擧ぐるは欣幸とする處なり。

#### 次記

### 日本鐵鋼協會晚餐會卓上演説

(昭和 13 年 4 月 3 日(日)午後 7 時 55 分)

○水谷會長 御挨拶を申し上げます。今夕は毎年の例に依りまして晚餐會を開きまして、明日見學を御快諾下さった所の御方、今日香村、服部、俵賞を御受けになりました方々、又御講演になりました方々を御案内致しましたところ皆様御出で下さいまして有難うございます。本會も各方面の御支授と會員の御協力に依りまして逐年健實なる發達を遂げまして、今日御聞き及びの通り會員も 2,400 名を算して居るやうな次第であります。昨年に比しまして 1 割の増加であります。尙ほ此の上とも皆様の御支授、協力を依りまして益々本會を發達致したいと存するのであります。

私は此の總會に於きまして任期が満了致して退任を致すことになりました、在任 2 箇年間は前會長理事各位の御懇篤なる御援助と御協力、又會員の御厚情に依りまして此の重任を大過なく勤めましたことは私に取りまして望外の仕合せと存じます。此の機會に厚く御禮を申し上げます。本日御當選になりました新會長齋藤博士を御紹介申し上げます。

○齋藤會長 此の度は圖らずも皆様の御推薦に依りまして本協會の會長たる重任に就くことになりました私と致しまして非常に光榮に存じますと共に、又私の淺學非才を顧みまして果して此の重い任務を大過なく果し得るや否やと云ふことに付て非常に心配致して居る次第であります。どうか皆様の御後援に依りまして此の重任を能く果させて頂きたいと念願致して居る次第であります。尙ほ私は御承知の通り遠方に住居致して居りますので、今後は少くとも月に 1 回はこちらの方へ伺ひたいとは存じて居りますが、さう云ふこちらに不在勝でありますので、前會長並理事の方々並各位にも定めて多大の御迷惑を掛けることと恐縮致して居る次第であります。どうかそれらの點に於きましても御同情を以て然るべく御引廻しを願ひたいと存じて居る次第であります。簡単であります、之を以て私の挨拶と致します。(拍手)

○河村 驍君 甚だ潜越でございますが、私は會員の代表と致しまして一言御挨拶を述べさせて頂きたいと存じます。今回の第 23 回の總會に當りまして會長の改選が行はれて、水谷會長には任期満了御退任に相成りましたが、水谷會長は既に古稀以上の御高齢にも拘らず誠に壯者を凌ぐ御元氣で居らつしやいまして、而も多年の御閱歴上誠に圓熟したる御手腕に依りまして會務を最も圓滑に遂行せられ、御任期中に會務の刷新と整理とに對し貢献されました功勞は實に多大なものがありました、殊に御任期中に故野田博士の記念事業の議が會の内外に起りました際、實行委員の一人として常に折衝の局に當られまして、其の結果本會對して記念資金の 110,000 圓と云ふ多額の寄附を見るに至り、記念事業として本會に記念圖書館を設置する、斯う云ふ基礎を築かれましたことは特筆すべきことでありまして、茲に厚く感謝の意を表する次第でございます。次

#### 1. 學術上有益なる論文題目及著者

鋼の焼入に及ぼす各種元素の影響(鐵と鋼第九號)

海軍技術研究所理學研究部々員

海軍造兵少佐 工學士 俵 信 次 君

#### 1. 技術上有益なる論文題目及著者

鹽基性電弧爐製鋼法と白點問題(鐵と鋼第十號)

當時 神戸製鋼所製鋼部長 工學士 久 芳 道 雄 君

に新會長齋藤博士に付きましては既に學界の最高權威者の一人として、又製鐵功勞者として定評のある者でありますから私から駄足を加へる必要もないのであります、同博士は本會創立以來の評議員として、又本會の諸會合に於て度々委員長として盡力されましたことは皆さんの御承知の通りであります。殊に同博士は本會が始めて以來中央の東京に於きまして、或は地方に於きまして本會の大會の開催の都度一回も是迄缺席されたことがないと云ふレコード・ホルダーで居らつしやるのであります。本會の事業に對して如何に御熱心でおありなさるか云ふことは此の一事を以ても推察することが出来ると考へます。昨今時局は益々重大性を加へ、我が國の不足資源物資の自給自足上諸工業の急速なる擴充を要するものがありまして、從て基礎材料たる鐵、鋼の増産、鐵鋼工場の増設、品質の改善等の問題に對しまして、技術上幾多の研究を要し、本會の使命も亦益々重大を加ふる時に際しまして同博士の如き權威者を會長として迎へましたことは誠に欣賀に堪へざる次第でございます。以上水谷前會長に對し感謝の意を表すると共に、新會長の將來の御健闘を祈り、併せて會員御一同に對しましては今後本會の執るべき方策に付きましても、時勢の進運に連れまして一大躍進を考慮すべき際でありますからして、新會長に協力して益々本會の發展を圖り本會の益々隆盛に赴かむことを祈る次第であります。(拍手)

○水谷會長 例に依りまして是から 5 分間を限りまして皆様の或御方から御話を伺ふやうに致したいと存じますが、如何でございますか、(拍手起る) 勝手にでございますが、私に御話を願ふ御方の御指名をしますことを御許を願ひたいと思ひますが、宜しうございませうか、(拍手起る) 八幡製鐵所製鋼課の松原工學士に一つ願ひます。

○松原武三郎君 誠に僭越でございますが、本日の服部賞、香村賞及俵賞受賞者を代表しまして茲に一言御挨拶を申し上げます。我々淺學非才經驗にも非常に乏しいにも拘らず此の度はからずも受賞の榮に浴しましたことは我々の最も光榮とする所でありまして、是れ全く前會長の水谷博士を初め各大先輩及皆様方の御指導と御援助並御引立に依るものと我々は深く感謝する所であります。又今夕は我々一同に對しまして盛大なる御招きを得ましたことは我々の誠に恐縮に堪えない所でありまして併せて厚く御禮申し上げます。時局益々重大な時我々は一層奮勵努力以て本會の理想に向て、御期待に副ひたいと考へおります。どうか皆様、今後とも御指導と御鞭撻の程を切に御願ひする次第でございます。誠に簡単でございますが、一同を代表しまして御挨拶申し上げます。(拍手)

○水谷會長 其の次は來賓の名古屋さんに御話を願ひたいと存じます。

○名古屋三吉君 私は川口で甚だ貧弱な鑄物工場を經營して居り

ます名古屋でございませう。能く川口に御見學に御出でになる方に、川口にどうして鑄物工場がこんなに澤山出来たかと云ふ御質問を受けますが、是は荒川の水運と鑄物砂の關係で記録に依りますと鎌倉時代に唐の何とか云ふ坊さんが初めて川口に來て始めたのだと云ふことでございませうから、餘程古いことだらうと考へます。それから明治維新に於てはあの唐金の大砲を鑄たこともありますし、又鑄物の貨幣を作たこともあるやうでございませう。其の後明治 27, 8 年の戦役の頃には、私共はまだ子供であつたのでありますが、其の頃は本當に貧弱な川口の鑄物工場でございまして、鑄物同業者が約 20 軒位だと思つて居ります。それが日露戦争の時に急激に増加しまして、機械鑄物が非常に發展しまして、現在では約同業者が 600 名位でございませうから、どの位膨脹したかと云ふことを御想像願ひたいのであります。さうして現在 600 名ばかりの會員の内、約 100 名位は機械製造業者が鑄物同業組合に入居るのでございませうから、約 500 軒位は鑄物屋でございまして、1 日に約 2 噸平均に使たとしても 1 日に 1,000 噸位の銑鐵が要る筈なのでありますが、其の配給状態は誠に貧弱でございませう、例へば私の所では 1 日 10 噸あれば澤山なものでありますが、それが約 1 日 2 噸か 3 噸位しか入らない、後は全部古銑を以て代用しなければならぬやうな状態でございませう。どうか斯う云ふ風なことでなく、新しい銑鐵がどんどん入るやうに此處に居らつしやる大家にどうぞ御願ひする次第でございませう。現在では約 90 圓位で共販會社の銑鐵は買へるのでございませうが、其の銑鐵が充分に買へない爲に古銑の 170 圓、180 圓もするやうなものを以て補はなければならぬやうな状態でございませうから、如何に我々が苦んで居るか云ふことを皆さん御賢察を願ひたいのでございませう。其の外コークスも非常に拂底して居るのでして、是は全く御話にならぬやうな状態でございませう、或工場では乾燥用のあぶりコークスにカーボンとか云ふものを（手前共では未だ使たことがございませぬが、混合して使つて居ると云ふやうな騒ぎで誠に困つて居りまして、從て品質も多少低下しやしないかと私は心配して居るのでございませう。何分さう云ふ風な経緯でございませうから、どうぞ一つ此處に居らつしやる鐵、鋼の皆様が充分一つ我が川口市に御後援を下つて、一日も早く材料が豊富に間に合ふやうに一つ御盡力を願ひたいのでございませう。失禮致しました。（拍手）

**○水谷會長** 其の次は香村賞、服部賞、俵賞の本會に設けられた方々の御話を順次に承りたいと存じますが、悲しいことには、今日も申上げた通り香村博士は物故致されましたので、服部博士に何か御話を願ひたいと存じます。

**○服部 漸君** 只今指御名でございませうから、本日此の大會に臨みました感想を一言申し上げたいと存じます。私は本日此の第 23 回の總會並 19 回講演會に出席致しまして色々御話を承り、又會長からの詳しい御報告に依りまして本會が年と共に盛大になつて行くこと云ふことを非常に嬉しく何たのであります。皆様と共に是は非常に喜ばしいことであると存じます。現在に於ける此の鐵、鋼の需要と申しますものは皆様御承知の通り非常に急激の増加でありまして數年前色々な形式を以ちまして將來の推定計算をされた數が色々ありますが、其の時に鋼塊 5,000,000 噸と云ふ推定數量を聞いたのであります。是は豫定よりも早く既に其の時代に到達したと云ふやうな狀況であります。又今後數年ならずして此の需要と云ふものは益々殖えて約倍加すると云ふやうな推定もせられて居るのであります。之に對する原料のことを考へて見ますと、鑛石に致しましても銑鐵用並製鋼用の石炭に致しましても龐大な數字に上るのであ

ります。それは今日原料の推定から推し、又將來其の製鋼法に依りまして銑鐵の利用と云ふものが益々困難になると云ふやうな事情から考へて見ますと云ふと、此の原料の鑛石にしても品種や數量又石炭にしてもコークス用の特種石炭や、又製鋼用の石炭として益々其の數量が殖えると云ふことは誠に已むを得ないことであると考へるのであります。併ながら此の龐大な原料に對して之を如何に賄ふかと云ふ問題は是は頗る難問題であると存じます。御承知の通り我が國に於きましては鐵鑛の埋藏量と云ふものは至て少い。で、今日のやうな勢ひで以て需要が殖え、又現在だけの需要に致しましても皆内地の鐵鑛を使ふと云ふことになりますると、是は誠に僅かなものであります。それで内地の鐵鑛と云ふものに對しましては將來國防上萬一の場合に於きましての貯藏の數量と見做して取て置く必要がある位に考へるのであります。然らば此の鑛石なり石炭なりと云ふものを如何にするかと云ふ問題に付きましては、是は既に當局に於きましても支那、滿洲方面に資源を求めると云ふことに付て御研究を進められて居る次第でありまして、又南洋方面のことも考慮に入れて、此の關係の方々には計畫を樹てられて居ると云ふ次第であります。併し是は獨り其の當局の方々ばかりの考でなく、日本國民一般の人の是は重大なる問題として考慮に入れなければならぬ問題と考へるのであります。で、貧鑛處理の問題、又は砂鐵利用の問題、是は此の原料資源を殖やさうと云ふ意味に於きまして色々積極的研究を重ねられて居るのでありますけれども、又一面から申しますと我々學會の人間と致しましては之を理論に基いて研究をし、又實地に依て經驗を重ねて、さうして成るべく此の製品の品質を改善し、又向上する。從て今迄のやり方では、十を要したものを五のものを以て用事を辨ずると云ふ詰り品質改良の點からして原料の節約、材料の經濟と云ふことを圖て行くと云ふことが此の學會の研究すべき途であるかと考へるのであります。即ち今日段々御講演がありました如きも又今回各種の名譽ある賞牌、賞金を受領せられました事も皆、只今私が申しました十の代りに五を以て辨ずると云ふ趣旨に基いてそれぞれ、其の方面に於て御努力をなされて平素研究をせられた所、又實地の經驗に依て得られたる、其の苦しい結晶の御發表であり、又表彰であると私は考へまして、是等の諸君に對して、只今御丁寧な御挨拶がございませうが、私共會員の一人と致しまして大いに敬意を表し、及祝意を表したいと考へるのであります。どうぞ今後に於きましても此の種の研究を益々重ねられまして、又經驗を得られまして、本會の有て居る所の使命を全うすることに御盡力あらむことを希望致す次第でございませう。尚ほ終りに臨みまして會長初め役員の方々御盡力に依り、又明日から拜見を致す工場の見學を許されました方々の御好意に依りまして今回の此の大會を盛んに行ひ得たと云ふことに付て私は有難く御禮を申述べたいと存ずるのであります。一言以て御挨拶と致します。

（拍手）

**○水谷會長** 俵博士どうぞ。

**○俵 國一君** 此の機會に私の考へて居りますことを御話申上げて皆様の御協力を御願ひしたいのであります。先程河村博士からちよつと御話がありましたのでございませう、此の時局に際して本會は色々考へなくちやならぬぢやなからうか、就ては皆さんの段々の御意見があるだらうと云ふやうな御話がありました。實はそれに付きまして私も頻りと考へさせられるのであります、と申しますのは此の鐵鋼協會が今から 23 年前に出来た時の日本國の様子と今日とは著しく變て居る、實は日本鐵鋼協會を創立致しました時には故

野呂博士、香村博士、只今隣席に居られます今泉博士と私と四人で先づ下相談を致しましたもので、其の経緯に付きましては先輩の今泉博士から御話になつた方が或は宜しいかとも存じます。兎に角今から 23 年前には日本の製鐵事業は年産僅に 300,000 吨、世界に於て第 11 位か 12 位に位して居た時期であります。従て製鐵業者だけでは鐵鋼協會は逆も成立たない。鐵鋼材を用ひられる側の機械業者、造船業者、建築土木業者は勿論、總て新企畫に參與して頂かねばならぬ。従て製產品の研究、調査即ち金屬材料に關しても充分に之を考慮に入れるやうにと云ふ考でありました。夫は創立以來本會の樞機に參與せられ多大なる盡力を賜はつた役員其の方々の名前を見ても判ることと思ひます。之に就きまして一つの思ひ出の話があります。世界大戰が濟みましてから、神戸製鋼所に來て居られたコトノ博士が、鐵鋼協會で講演されましたことがあります。此の方は歸國後ブラグの大學教授に成りました、同博士が其の時に言はれた丁度今日の鐵鋼界の力は自分の國チエコスロバキヤと同じやうな状態である、然るに自分の國では逆でも斯くは行かぬ、日本の此協會では千數百と云ふ會員のあるのは實に素晴らしいことだと云ふことであります。それで私は日本では斯う云ふやうな考でやつて居ると前に述べました鐵鋼材の使用者の協力参加を得て居ると返事した。さうか、それで會員が多いのだらうと云ふやうなことであります。然るに 20 數年を経過した今日の状態は如何であるか、先刻會長は詳しくは統計を擧げられませぬが、想像する所では或は創立當時の生産額の 30 倍にも近々ならむとして居ると云ふやうな時期であります。現在其の順位に於て世界の第六位に成た、或は近々第四位になりはせぬかと云ふやうな調子。今日日本國の製鐵事業は進んで居るのであります。而も他方に時代の要求と致しまして、金屬學會のやうな金屬材料を主とする立派な學會が出て參りました。それで私の考と致しましては、決して今迄重きを置いた金屬材料を度外視すると云ふことでもないのでありますから是は誤解のないやうに御願ひしたいのであります。日本の製鐵事業が非常に發達して世界の 6 番目或は 4 番目になりはせぬかと云ふやうな時期に於ては、もつともつと力を製鐵事業に入れる必要がある製鐵鋼技術の改良進歩を計る爲めに、今一段の努力を本協會で拂はねばならぬ。本邦に於ては其の點即ち製鐵鋼技術が學問でも實地でもがどうも遅れて居るのではなからうか、と云ふ考が頻りと致して居ります。此の資源に乏しい本邦ではもつと優良鋼材を造て現下の困難を切り抜けねばならませぬ。夫には方法が種々ある、例へば獨逸、英吉利、亞米利加等の研究調査委員會の實際の鋼を造る、銑鐵を造る技術を綜合的に研究して居る其の態度を見ますと浮いた調子ではありませぬ。私は及ばずながら従前から斯る綜合研究が大切であると考えて多少之に携はつて居る。併しどうも幾らやつても、歐米の夫に及ばないやうな氣が私は致します。之は從來本邦人はチームワークに慣れぬ爲めと思ひますが段々改善の氣運に向ふのは喜びに堪えませぬ。又本邦に於ける研究が近來次第に製造の方面に向きましたことは頗る有難い。例へば本會に於ける講演を拜聴致しましても、どうも以前は實際の製造作業を研究的になさる方が少かつたが、段々近年多くなつて來たと大変喜んで居るのであります。一層此の點即ち製造技術の研究に重きを置く、或は委員會を設けるなり、又其の他の方法を以て、詰り化學式研究の方に一層努力したい、是が現在の状態から最も必要なことで、又我々製鐵技術を専門と致します者の進む大切な途だらう、斯う考へて居ります。色々又此の點に付きまして新會長、又各會員の御援助を賜り益々本會の使

命を全うしたいと考へます。(拍手)

○水谷會長 今迄御話を願ひました方は東京の御方でございますから、大阪迄一つ旅行をして住友金屬工業の荒木さんに御願ひします。

○荒木 宏君 私のやうな未熟な者を御指名になりました理由は能く分りませぬが、大阪の者と云ふやうな條件が附いて居たやうであります。何か大阪人としての話を聞いてやらうと云ふ御積りかとも思はれるのであります、世間で能く大阪の人の悪口を言ひまして、人と會へば直ぐ「近頃儲かりまつか」と金儲の話ばかりをすると言はれて居るのであります、私は金儲の方は頗る下手な方でありまして此の席で其の方面の話を申上げるとは到底出來ないのであります。又何故私を御指名になつたかと云ふことをもう少し考へて見ますと、評議員と云ふ役にありながら一向本會の爲に働かない、例へば今回の講演大會でも大阪の方から講演者が誠に少いやうであります、一向働かぬから一つ何か言はしてやれと云ふやうな御氣持かも知れぬと思ひますが、實は其の講演者の餘り出て居ないと云ふことに付ては是は確に私なども其の責任の一端を負はなければならぬのかと自分では思て居ります。まあ色々理由もあつたらうと思ひますが、何れ遠からず又大阪でも講演大會がございまして思ひますので、其の際には出來るだけ多數研究發表のあるやうに今から私共一つ心掛けたいと思て居ります。尙ほ其の研究の發表と云ふやうなことに付て實は昨晚或會合の席で三島博士から御話があつたのであります。其の御話に依りますと、本會の今回の論文發表は 26 でございしますが、それから金屬學會が 50 と云ふやうな誠に研究論文の發表が盛んな有様であります。尙ほ其の論文も、其の研究も非常に内容の充實した立派なものであつて、世界の何處に出しても恥しくないものであると三島博士も言はれて居るのであります。誠に其の通りだと思ひます。尙ほそれに附加へて此の論文の方或は研究の方はなかなか盛んになつて居るが、之を工業化することが餘程まづいやうである、どうも是は外國に一籌を輸して居ると云ふやうな意味の御話がありました是は私も平生さう思て居りますので、折角立派な研究が出來ても之を利用し、活用して工業化すると云ふことは我々工業に従事して居る者は非常に下手である、日本人が大體下手であると云ふ風に諒解して居るのであります。是はどうか西洋に負けないうらに一つ、折角皆様の研究が出來て居るのでありますから、之を立派に工業化したいと考へて居るのであります尙ほ又それに關聯しまして研究の發表の形式であります、外國あたりで最近學會の様子を能く知りませぬが、相當澤山良い論文も出て居らしいやうであります、大體外國の連中は餘程國家意識を以て論文等の發表に付ても國防だとか、或は會社の秘密と云ふやうなこともあるかも知れませぬが、うっかり論文の發表はしない、それで相當良い研究があつてもなかなか是は世間に出さないと云ふやうな傾きがあるのではないか、其の點は我が國ではどう云ふ風になつて居るか是は多少考へる餘地があるのぢやないかと思て居るのであります。軍部の方の研究の御發表等に付てはさう云ふ點は充分御注意になつて居ることと思ふのであります。併し學校方面とか或は民間方面の研究發表は今日の國際的と言ひますか、此の頃の戦争等を見ましても大體此の金屬工業の戦争と見ることも出來ると思ふのであります、さう云ふ意味に於て國防上から考へて金屬材料の研究發表と云ふことに付ては餘程考慮しなければならぬと考へるのであります。併しそれかと云ふて、折角研究になつたことを發表されないうで置くことも是は非常に世間に對して惜しいのでありますか



ら、其の邊の兼合と云ふものは非常にむづかしいものと思ひますが、兎に角相當考慮する必要があるのぢやないか。尙ほ又似たやうなことでありますが、此の特許出願と云ふやうなことに付ても、特許が公告になりますれば大體どう云ふことをやるのかと云ふことが分りますので、殊に外國特許などは是は充分研究したいと思つて居る次第であります。まあこんなことを申しまして本會の論文發表が其の意味に於て何か悪いと云ふことを決して言ふのではありませぬ將來さう云ふ場合には相當考慮する必要があるのぢやないか、或は特許出願に對しても餘程考へた上でなければうづかりやれないと云ふ風に普段考へて居るのであります。詰らぬ取止めもないことを申し上げましたが、是で御免蒙ります。(拍手)

**○水谷會長** 大阪の旅を致しましたから、此の次は一つ滿洲國へ飛びまして長谷川博士に何か御話を願ひたいと存じます。

**○長谷川熊彦君** 遠方から参りまして御指名を頂きまして誠に有難うございます。實は滿洲からは私だけでございませぬで、外にも見えて居ると思ひますが、まあ失禮させて頂きたいと思ひます。私滿洲と申しましてほんのはずれの旅順に居ります譯で、はずれと申しまして内地から申しますと田舎のはずれのやうなことであります。まあさう云ふ所から参りまして諸先生、諸先輩初め多數の方に目に掛かることを得ましたことを喜ばしく存じます。先程から諸大家の色々な御話を伺ひまして誠に啓發されるが多々あつたやうに存じます。殊に河村前會長、俵前會長の御話を伺ひまして、普段色々時局の様子を遙に見聞をして居ります。それを繰返して色々御伺したやうな感じを致しまして、實は今回の講演に於きましてもう少し時局に關係したやうな、實は實際問題とでも申しますか痛切なやうなことがありはしないかと云ふやうな豫想も致して居りましたし、聞きも致しましたが、段々御伺して居ると今の荒木さんの御話のやうに軍機の祕密とか、或は會社の色々な事情もおありのやうに伺ひまして誠に御尤もなやうなことに思ひますが、金屬學會の講演題目及其の内容のことは存じませぬが、ざつと伺ひました所で數が澤山あるやうであります。尙ほ内容等に付て見ましても、まあ謂はゞ學問的の説明或は實驗的の論文、斯う云ふやうな意味のものが多いやうな譯でありますので、或は直接生産上に縁が遠いのではないか、それで數が多い、斯う云ふ風な意味にも解釋されるやうな氣も致しますが、又一方私共の觀察から申しますと、實驗上或は學問上の説明と云ふやうなことは割合にやり易いやうなものが多いぢやないか、或は會員の數の上から見ても已むを得ぬぢやないかと云ふ氣も致します。唯實際上の問題を解決するケミカルとか、或はケミカル・メタロジとでも申しますか、さう云ふやうな方面になりますと僅かなことでも2年や3年掛ても到底發表の形式に於ては頗る困難であると云ふ風な事柄が多々ありますやうな氣も致します。と申しましてさう云ふものを矢張りやりませぬと困難を打抜けると云ふことはどうであらうかと云ふ氣も致します。私みたやうに學校などに居りますと成るべく發表して頂きたいと云ふやうな氣が致します。形は或は少し學問的、經濟的から離れても結構だと思ひますが、何かさう云ふ内容の酬はれるやうな方法で斯う云ふ會で御獎勵をして頂きますれば誠に結構なことと思ひます。實際軍需品を作られると云ふやうな所はなかなか工場を見せて下さらぬと云ふことは當然なことでありまして、それから又論文發表の意思は有ておいでになつても時局の爲に、或は特許其の他の爲に發表にならぬ、さう云ふやうな場合も相當あるかと思ひますが、さう云ふことだけでありますと矢張りお互に刺戟が少くなりますし、知識の交換

と云ふことも疎になりますし、殊に若い學校の卒業生のやうな者は矢張り多少とも斯う云ふ會に出席して、少し位話をすると云ふやうなことを獎勵して下さることが學校あたりに居ります者は非常に望ましいやうに思ひます。自然さうなることと思ひますが、餘りに會社の方で何をやつても他所に見せたり、出さぬと云ふやうなことになさいますことは心細いやうな感じが致します。已むを得ないことは勿論當然御發表にならぬと思ひますが、中には差支ないこともございませうと存じて居ります。實は先程も御話もございましたが、滿洲の方で冶金學會と云ふ小さな方面の會合を致して居りますですが、是は鐵鋼協會の分身と云ふ譯でもございませぬ、さう云ふ風に實ははつきり致して居りませぬので、鐵も輕合金も、或は鑛石の方も石炭以外は含まれると云ふやうな意味で、極く幼稚なものであります。それで會合するとか、講演をするとか、知識の交換をしよと云ふやうな意味でして居りますので、さう云ふ方面から準備をして講演を中央にでも希望して出る、斯う云ふ風な所に會社の方にも段々御願をして居りますやうな譯でありますから、今後とも先程御話もございました講演に滿洲の方から講演者が出るやうに極力僅かながら盡力を致したいと存じます。さう云ふ意味で返へしに内地の方の事柄も出来るだけ御發表になりますことを此の席から實は附加へて御願ひ申して置きます。先程服部前會長や其の外の方から御話もございましたやうに、非常に日本の生産が莫大な増加をする、斯う云ふやうなことから見ますと、原料の問題にしましても、製品の問題にしましても日本だけの事情で非常に協力一致して難局を切開くと云ふやうなことに當然御進みになりつゝあるやうに存じて居りますが、さう云ふ面方を逐次教へて頂きますことを繰返しまして御願ひ申したいと存じます。詰らぬことを申し上げましたが、是で御免蒙ります。(拍手)

**○水谷會長** 段々時を経ちましたし、旅順から直行をして東京に歸ることに致しまして、今泉博士の御話を伺ひまして、それで打止に致したいと思ひます。

**○今泉嘉一郎君** 我國が日清戦争をやりました時には、1箇年の生産鋼材が僅に1,000 吨、次に日露戦争の時には10 餘萬吨、歐洲大戰の時は40 萬吨と云ふ位なことで戦争をしたのでありましたが昨年は550 萬吨の鋼材を以て戦に臨んだ次第であります。

兎も角戦に臨む毎に、いつも鐵の饑饉を感じた、其の反響として今度は戦を経る毎に日本の製鐵業は急激に進歩したのであります。要するに非常時の困難が大ならば大なる程、其反響も大なることを實驗した、そこで現在はどうかと云ふと、時局の關係から鐵の需用が激増して生産が間に合はず只今名古屋さんの御話のやうに鑄鐵業や機械工業等に對して非常の困難を與へて居る、併し斯う云ふ困難が多くなればなる程夫が日本の製鐵事業を刺戟することにはなりませんから、其結果は必ずや斯の事業の今後の一大飛躍を來すことが想像されるのであります。只困たことは鐵の生産を増加すると云ふことは思立ても急には運ばない、原料や設備の關係で嫌でも相當の時日を要することである。姑息な方法で無理に生産を謀ても大した働をすることが出来ない。それは此の前の歐洲大戰の時に、一時的の姑息法で、小さい熔鑛爐や、又はそれに類似した方法で銑鐵を造る工場會社が澤山新設され、其數全國で約100 箇所ばかり出來ましたが、戦争が止むと同時に殆ど全部が潰れてしまひました。

今日の鐵の不足と云ふことは御互に誠に困たことでありますが今や現に銑鐵だけでも各方面に建設中又は建設準備中の熔鑛爐を合計すれば、日産1 萬吨の生産に達するものが着手されて居るのであ

りますから、餘りに將來を悲觀するには及ばないと思ひます、製鐵原料の問題の如きも、將來は心配はないとしても時局のために唯眼前が少し困るのでありますから、當分の處需用者供給者共、努力と忍耐が必要であると、斯ふ云ふ風に私は考へて居るのであります。

次には我が協會に於きましても、會員諸君に對して今日のやうな立派な研究はどんどん御發表して頂かなければならぬと思ひます。何となれば、今日我國の製鐵事業は益々複雑になつてまゐりました結果、技術的にも經營上にも日に増し問題が多くなりつゝあります殊に技術方面に於ては専門的の分派が益々細別に互て來ることは驚くべき進歩の狀態だと思つて居ります。左様にして單に製鐵學と申しましても、種々細かい各方面に分れて深遠の研究が行はれ、其結果が本會に依て世に發表され、會員は互に他の研究を利用すると云ふことになるのであります、併し夫等の研究の總てが實際に其の儘應用出来るかと云ふと、勿論さうはいかぬ、さうはいかぬけれども少くとも他の研究の參考となることは疑なきことであります、又實行の方から申せば、研究の發表を受けて其儘直ちに實行は出來ぬとしても、將來の計畫上に極めて貴重なる指導を受けることは常にあることであります。又是までのやうに研究の結果を世に發表することは、遂には外國人にも知れるから我國の爲に不利ならんとの御話もありましたが、國防上其他國益上秘密を要する重要な研究な

れば是は別物であります、從來のやうな、學術上の研究ならば、之は矢張世に發表して世界の文化にも貢獻すると云ふことが、寧ろ我國の利益だと思ひます、彼のドイツ國が政治上にも經濟上にも他國との激しい競争の中心にありながら、ドイツ鐵鋼協會は、其創立後 57 年の今日でも、相變らず鐵、鋼に關する自國の研究の結果を毎週 1 回其の機關雜誌に發表して、世界各國の會員にまでも送て居る、又昨年ドイツのデュッセルドルフ市に「創造國民」と命名した博覽會を開いて、從來ドイツに缺乏して居た總ての資料に對し盡く其代用品を作て行くと云ふことに付て全力を盡して居る有様を實物は勿論、かなり細かい説明まで加へて一般の人に見せた、夫は、何でもドイツに恵まれぬ材料をドイツの理化學の研究で作て居る情態が、斯の如きものと云ふことを世界に公表したのであります。我國と雖もそれ位の勇ましい勢ひを以て進みまして、諸君が御勉強になつた結果を續々發表して、世界各國と知識の交換を爲すのが、只今長谷川さんの御話のやうに、却て良いことと思ひます。

諸君が斯ふ云ふ風な御氣分をも御持ちになつて、良い御研究をなされ、御差問へなき限り奮て發表なさるやうにして頂きたいと、私は願ふのであります。茲に會長の御許を得まして皆様と共に杯を擧げて、我が日本鐵鋼協會の萬歳を三唱したいと思ひます。

(萬歳三唱) 午後 9 時 5 分